

会議結果報告書

1. 会議名 令和3年度 第4回 印西市環境推進市民会議・事業者合同会議
2. 日時 令和3年10月15日(金) 9:30~12:00
3. 場所 市役所会議棟 204 会議室
4. 出席委員: 岩井会長、白川委員、川井委員、小山委員、関根委員、橋本委員、福井委員、村形委員、山崎委員、山田委員、吉村委員、渡辺委員、朝倉委員、三輪委員
事務局: 飯島環境保全課長、海老原環境保全課長補佐、黒田保全係長、清田主任主事
5. 傍聴者 0名
6. 配布資料
 - ・資料1 第3次印西市環境基本計画(素案)
 - ・資料2 第3次印西市環境基本計画(素案)への意見対応一覧
 - ・資料3 令和3年度版 印西市環境白書(素案)
 - ・2020 印西市自然環境調査報告
7. 内容
 - (1) 開 会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議 事
 - ①第3次印西市環境基本計画(素案)について
事務局より、令和3年度版印西市環境白書(素案)について説明
会 長:令和3年度版印西市環境白書(素案)の説明について、質問やご意見などあれば
願います。
委 員:資料3 14ページの地下水の水質汚濁に係る環境指標について、令和2年版の環
境白書では5地点のうち4地点で基準を達成していたが、令和3年版の環境白書
では5地点のうち2地点で基準を達成しており、状況が悪化したと解釈する。サ
ンプルングポイントや基準超過の内容について教えていただきたい。もしくは、
環境白書にデータを載せていただきたい。木下万葉公園には地下水の取水場所が
あり、夏に子どもたちが水を飲むことがあり懸念される。
会 長:回答に時間がかかるようなので、別の質問を受けつける。
委 員:資料3 8ページの調査結果について、前回と比べて外来種が増えた理由は、調査
能力の差だと考える。前回と今回の調査条件は同一か。外来種が200種も増えた
のであれば、内容を教えていただきたい。
事務局:過去のデータを調査員が把握した状態に入るため、確認種数が増えることがある。
また、調査時間も確認種数に影響を与える要素となる。調査結果は限られた日数、
限られた条件に基づく種数となる。外来種は増えているが、注目種のほうも増え
てはいる。

委員:印西市では、生き物が増えているという誤解を招かない表現とされたい。

事務局:検討させていただく。

委員:資料3 19ページ「環境美化の推進」における「指導員によるパトロールの指導件数」95件、過料件数が0となっている。過料件数の累計数が0件である場合は、条例がうまく運用されていないことが懸念される。

事務局:クリーン推進課に確認させていただく。

委員:26ページ「市内駅の1日平均乗車人員」について、市内人口が増加しているにもかかわらず、減少したのはなぜか。

委員:コロナの影響で減少したことが考えられる。

委員:コロナの影響という説明が多いため、一つの印で付けるか、全部に付けるかして、10年後にも分かるように、しっかりと理由を記載されたい。

事務局:先ほどの地下水の水質汚濁に係る環境指標についてお答えする。調査は、毎年異なる民家の地下水の水質を調べており、昨年度については5地点のうち3地点が、汚染物質ではなく自然由来の成分により超過している。

委員:木下万葉公園が飲み水に適さなければ、公園内で明記するなど検討されたい。

会長:10ページの光化学オキシダントのグラフに「丸、バツ」とあるがどのような意味か。

事務局:オキシダントのOXを意味している。

会長:他になれば、令和3年度版印西市環境白書(素案)については以上とする。

事務局より、第3次印西市環境基本計画(素案)について説明

会長:第3次印西市環境基本計画(素案)の説明について、質問やご意見などあればお願いします。

委員:3ページ、県の関連計画に「生物多様性ちば県戦略」を記載することを検討されたい。11ページと74ページのカーボンニュートラルについて、菅首相の所信表明ではなく、国の施策を根拠とし、菅首相の名前を削除されたい。34ページ基本目標1にはSDGsの3番・6番、9番を入れることを検討されたい。38ページの将来イメージにホテルのほか、例えばアカガエルとサシバがいた生態系について記載されてはどうか。また、水辺の掃除をすればいいということではないため、表現について検討されたい。環境教育などについて記載してはどうか。39ページ「谷津田、さらに周辺に広がる樹林地」とあるが平面的な印象を受けるため、「谷津田からせり上がっていく斜面林」という表現が適切だと考える。また、開発により、コンクリート、アスファルトになると、雨水溝から、台地による水質浄化なしに河川に流入し、斜面林下部から水も染み出なくなるため、生態系に大きな影響が出るのが懸念される。企業は、道路は浸透性舗装や雨水涵養柵など、台地の雨水浸透を守ることを基本にされたい。例えば47ページ「台地での降雨の適正な水

循環を図っていくため、雨水貯留施設や雨水浸透枳などの設置普及を進めます」について、環境保全課の役割とあるが、都市計画課の役割だと思う。事業者の役割について「環境行動指針に対する意見」をまた検討されたい。84 ページの印西市における気候変動の影響評価が分からない。例えば確信度の「専門家の判断」は誰が判断したか、判断の責任者も書いてほしい。

会 長:気候変動に関する 84 ページの表と 83 ページの説明をもう少し分かりやすくしていただきたい。

委 員:89 ページ「6-7 設定目標の達成に向けた取組」に建物の省エネルギー化や ZEH、ZEB の普及に向け改修とあるが、新築が重要と考えるため、改修だけでなく新築も追加していただきたい。

事務局:改修という形しか書いていないため、新築を入れるか検討させていただきたい。

委 員:99 ページ温室効果ガスの排出目標の「太陽光発電システム」「エネファーム」「次世代自動車」などは規模が大きく簡単に取り組めない。一般家庭で身近にあるエアコンなどに関することを書いてはどうか。エアコンは COP (最大負荷効率) ではなく、APF (通年効率) を考慮すべきだと記載してはどうか。給湯器についても、潜熱回収型やヒートポンプ式など高効率機器について記載されてはどうか。また、アイドリングストップとあるが、寒い季節の始動時は、3 分とか 5 分アイドリングして、車を温めてから発進したほうが、省エネになることがある。

会 長:メーカーや車種によっても違うことが考えられる。省エネ診断においては、アイドリングストップは奨励されている。

委 員:85 ページの産業部門では、エネルギー起源 CO2、産業部門の就業者数の過去の実績に基づいて 2030 年度を予測しているが、製造業は 15 パーセントほど上昇している。実績値では、2013~2016 年にかけて 2016 年に頭打ちで、2017 と 2018 の温室効果ガス排出量が減少している。2030 年度の推計に用いる活動量に製造品出荷額等を用いることは適切か。

事務局:企業努力や、使う機械の省エネ効果、電気の排出係数などの効果が見込まれる中で、直近年度である 2018 年度の温室効果ガス排出量と製造品出荷額に対応関係があることを仮定して、2030 年度では 15 パーセントほどの増加を見込んでいる。将来の電気の排出係数の低減による効果は 87 ページに、建物の省エネルギー化や、徹底的なエネルギー管理による効果は、89 ページ以降にそれぞれ見込んでいる。

会 長:来年度からは環境白書において、エコプランの CO2 量も計算されるか。

事務局:62 ページ以降の地球温暖化対策実行計画は、印西市全部の CO2 削減を図るための計画であり、庁内エコプランは、印西市役所を一事業体とした計画である。庁内エコプランについては市の事務事業における排出量を引き続き掲載し、区域についても算定の上、環境白書に掲載していきたいと考えている。

委員:先ほどの補足となるが、台地の水をしっかりと浸透させることについて、42 ページ施策の内容「多様な生態系の保全」に環境保全課だけじゃなく都市計画課も入れて、宅地開発などをする事業者に指導されたい。個別目標3「暮らしと自然のつながりの確保」においても、「豊かな自然や・・・」というところに水を考える視点を追加してはどうか。92 ページ気候変動の低減に向けた取組で、田んぼを放棄するのではなく、耕して水をためられるような状態にすることはとても大切と考える。農業については、大規模に機械耕作をできない土地を持つ農業者はどうすべきか、あるいは、どう市民が協力するかという視点が入るとよりよいと思う。事業者に関して、印西市に進出するために必要な条件を達成することを求める記載ができればいいと思う。

委員:誘致された事業者は、音や水、先ほどの雨水について、地面に浸透させるか、道路に流すかなど、厳しい条件をクリアしている。

委員:市民と事業者、行政という三位一体で推進していくが、農家を市民と事業者のどちらに捉えているか。

事務局:事業者と捉えている。耕作放棄地の問題はやはり里山保全にも関わるので、環境基本計画の中でも、第1章40 ページ里山保全を図るための施策の一つに、遊休農地がかなり増えてきた現状を踏まえた上で、新規就農者への支援だけでなく、後継者不足や遊休農地の解消を図り、里山を保全するという流れになっている。

会長:市内では、まだソーラーシェアリングの事例がないと思われるが、農業と太陽光発電を両方兼ねた技術「ソーラーシェアリング」についての記載を検討されたい。

事務局:ソーラーシェアリングに関するメリットとデメリットについて、担当課に確認させていただきたい。

委員:24 ページ「生活系や産業系、面源系」とあるが、言葉の意味を記載されたい。

事務局:工夫させていただきたい。

委員:104 ページ「(2)印西市環境推進会議」に市民・事業者の取組状況の確認とその結果を報告とあるが、誰が誰に何を報告するということがはっきりと記載されたい。

事務局:持ち帰り確認させていただきたい。

委員:来年度から地球温暖化対策に関するCO2削減事業が開始されるか。

事務局:CO2削減対策として、太陽光の補助など既に実施している事業もある。新規事業については、来年度はまだ固まっていないが、10年計画のため、来年度以降、引き続き、今までの取組を継続しつつ、新たな事業などを打ち出していきたいと考えている。

委員:印西市は、ゼロカーボンシティ宣言はしないのか。印西市がゼロカーボンシティを宣言することで、市民が頑張ろうとなるようなことが必要だと思う。

事務局:世界、日本、他の自治体や大手企業など、様々な主体がゼロカーボンに向けた宣言をしている。温暖化問題に限らず、例えばデジタル問題など行政が遅れを取っ

ている現状もあり、課題への対応に努めてまいりたい。

委員:企業が設置する機械などに関して印西市は制限できないため、とてつもない大きい事業者が建設される場合は、市として何もできないということか。国の法律で2050年までに0にすると言っている以上、即宣言できるのではないか。

事務局:そちらも、併せて検討させていただきたい。

委員:資料2のNo129とNo131について、認識が違う箇所がある。ボランティアの登録数はないかも知れないが、ボランティアに出ている団体はある。市民アカデミーでは、環境問題に対しては体験学習に入れ込んだ講座がある。修正する必要はないが、皆さんには知っておいてほしい。

委員:資料2のNo109について、セシウム137の半減期は30年であり、まだまだ脅威があるため、対応を検討いただきたい。また、詳細な測定箇所についても、草深の森で5カ所の測定の結果、基準値以下となれば安心できると思う。

会長:第3次印西市環境基本計画(素案)について以上とする。発言できなかった意見については事務局にメールなどで連絡されたい。

(4) その他

事務局:次回会議は来年2月頃を予定している。決まり次第、早めに連絡させていただきたい。

(5) 閉 会

以上

令和3年度第4回印西市環境推進市民会議・事業者会議合同会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和3年11月18日

環境推進市民会議 委員 橋本 千代子

環境推進市民会議 委員 福井 章夫